

## 委員ご意見 &lt;基本方針 2&gt;

|      |  |
|------|--|
| 奥村委員 | <p><b>&lt;相互授業見学会（具体的取組22）&gt;</b><br/>         公立私立問わず自由に学校を選択できることを踏まえると、どちらに行っても一定の質の教育を生徒が受けることができるようにすることはとても大切かと思う。<u>相互授業見学会などはとても良い取組みだと思うので、引き続きぜひ実施していただきたい。</u></p>   |
|      | <p><b>&lt;エンパワメントスクール（具体的取組31）&gt;</b><br/>         エンパワメントスクールの欠席者数や遅刻者数の減少率が十分ではないと判断されているようである。無理に学校に来るよう指導するというのではなく、自己評価に記載されているように、<u>スクールソーシャルワーカー等の専門家と連携するなどして、安心して登校できる環境づくり</u>を引き続き実施していただきたい。また、<u>ICTを活用し、なかなか学校に来られなくても学習に取り組みやすい環境づくり</u>に努めていただきたい。</p> |
|      | <p><b>&lt;チャレンジテスト（具体的取組46）&gt;</b><br/>         生徒のために公平でわかりやすい入学者選抜を目指すという理念は大切だと思うが、教育評価論の世界では、ハイスティクスなテストは様々なマイナス面（成績が悪い子どもをテストの日に休ませるなど）を生みかねないことが日本を問わず指摘されていることをこれまでも伝えてきた。<u>マイナス面が生じうることを考慮した上で、取り組みを進めていただきたいと思う。</u></p>                                      |
| 小田委員 | <p><b>&lt;障がいのある生徒の高校生活支援の充実（具体的取組37）&gt;</b><br/>         府立高校における「個別の教育支援計画」の作成率が95.1%になり、全国平均の約70%と比較すると、すばらしい進捗状況である。大阪独自に、全生徒対象に実施している高校生活支援カードによって、入学時に生徒のニーズを把握できることが、個別の教育支援計画の作成率向上につながっているものと考えられる。さらに、<u>各校の特色を踏まえた「高校生活支援カード」の活用が進むことを期待したい。</u></p>         |